

第3回 新生児生命倫理研究会

日時：3月9日（土）10:00～17:00（9:30 受付開始）

会場：東京大学情報学環福武ホール（東京都文京区）

プログラム：講演1「出生前診断は誰のため？—私たちの優生思想」加部一彦（埼玉医科大学総合医療センター教授）／講演2「臨床倫理コンサルテーションシステムの構築と新生児ケースへの適用」瀧本禎之（東京大学医学部附属病院臨床倫理センター長）／特別講演「遺伝情報といのちの権利—バイオエシックスのアプローチ」木村利人（早稲田大学名誉教授）／講演3「親の治療拒否事例における親権停止の現状」横野恵（早稲田大学社会科学部准教授）／症例検討「倫理的意思決定に苦慮した2～3症例」

参加対象：医療関係者

参加費：無料

参加登録方法：下記アドレスに参加希望のメールを送付

問い合わせ先：東京大学小児・新生児集中治療部 新生児生命倫理研究会事務局 高橋尚人

☎ 03-5800-8659

✉ nicu-office@umin.jp

🌐 nicu.umin.jp

国際母子ケア協会認定 ベビーマッサージ インストラクターコース セミナー

日程：[3月コース] 3月13日（水）～3月14日（木）、[6月コース] 6月12日（水）～6月13日（木）

月12日（水）～6月13日（木）

会場：アクエリエル京都（京都市北区）

内容：ベビーマッサージだけでなく、生後すぐから取り入れられるハンドリングテクニックなども併せて指導。赤ちゃんの姿勢運動発達を援助でき、専門家としての知識と技術を得て、指導できることを目指す。

定員：各8名

参加費：9万円

申込方法：メールにて件名「ベビーマッサージ〇月受講希望」と明記し、本文に①氏名②住所③電話番号を記入の上、下記メールアドレスに送信。

問い合わせ先：国際母子ケア協会事務局

☎ 075-468-7082

🌐 www.iamb.jp

✉ info@iamb.jp

日本地域看護学会 第22回学術集会

日時：8月17日（土）～18日（日）

会場：パシフィコ横浜・会議センター5階（横浜市西区）

テーマ：おたがいさまを基軸にした健康なまちづくり—コミュニティ・エンパワメントにおける看護職の役割

プログラム：キックオフセミナー（16日開催）「あなたもできる！質の高い保健師活動」吉岡京子（国立保健医療科学院生涯健康研究部公衆衛生看護研究領域主任研究官）、笠真由美（杉並区保健福祉部子ども家庭支援担当課長）

[1日目] 学術集会会長講演「地域組織活動からなるコミュニティ・エンパワメント—保健師活動の視座から

（仮）」金子仁子（慶應義塾大学看護医療学部教授）／特別講演「地域のサステナビリティとコミュニティ政策」小島聡（法政大学人間環境学部教授）／教育講演Ⅰ「医療制度改革と地域包括ケア」二本立（日本福祉大学相談役）／シンポジウムⅠ「コミュニティ・エンパワメントの具現化方策」：「子育て世代も含めた多世代型互助システムの構築」鈴木宣子（川崎市多摩区役所地域みまもり支援センター地域支援担当課長）、「住民と行政とが協働して行うコミュニティ・ミーティングからの活動」佐藤君子（新潟県長岡市栃尾支所）、「住民と創る地域包括ケア」永田祐（同志社大学社会学部社会福祉学科教授）、「保健師によるコミュニティ・エンパワメントの方法—事例調査の結果をふまえて」中山貴美子（神戸大学大学院保健学研究科パブリックヘルス領域地域保健学准教授）／指定集会1「医療ケアの必要な子どもの生活支援」木村やよい（衆議院議員）、気切っ子の会 小さな羽（保護者代表）、遠藤幸子（埼玉県立越谷特別支援学校）

[2日目] シンポジウムⅡ「地域包括ケアにおけるITの活用」：「本人・家族の想いを支援するためのITを活用した多職種連携—訪問看護師の目線から」本間幸井（在宅サービスセンター所長）、「被災後の人々の健康と生活を支援する『情報』と『技術』—東日本大震災から西日本水害まで」宮川祥子（慶應義塾大学看護医療学部准教授）、「過疎地におけるITを活用した地域包括ケアの取り組みの効果と課題」能勢佳子（鹿児島県肝付町役場福祉課介護保険係参事）、「ケアプランAI」川添高志（ケアプロ代表取締役）／教育講演Ⅱ「グローバル社会における地域看護活動—日本に暮らす外国

人の方々への健康支援」小林米幸（小林国際クリニック院長）／指定集会2「子育てにやさしいまちづくり」有沢貴美栄（横須賀市こども育成部こども健康課すこやか親子係係長）、鈴木佳奈（福島県会津坂下町福祉健康班健康増進係）／指定集会3「産業保健における看護職の役割」荒木田美香子（国際医療福祉大学小田原保健医療学部副学部長）、渡辺哲（神奈川産業保健総合支援センター所長）、猿山淳子（北地域産業保健センター）／指定集会4「がんと共に生きる人にやさしい社会づくり」大江浩（富山県新川厚生センター所長）、石井麗子（プラスケア暮らしの保健室）、瀬戸亜矢子（サノフィ健康保険組合健康推進センター）／市民公開シンポジウム「お互いの心を伝える親育ち支援」田中哲（東京都立小児総合医療センター副院長）、原田正文（大阪人間科学大学副学長）／一般演題（示説）／ワークショップ／他

参加費：〔事前登録〕会員1万1000円、非会員1万2000円、〔当日登録〕会員1万2000円、非会員1万3000円、学生（大学院生を除く）3000円（当日のみ）、〔1日のみ参加〕（事前・当日とも同一料金）会員6000円、非会員7000円

事前参加登録締切：6月28日（金）

演題・ワークショップ申込締切：3月1日（金）

問い合わせ先：ユピア内 運営事務局

FAX 050-3737-7331

E jachn22@yupia.net

URL jachn22.yupia.net/program.html

第33回日本看護歴史学会学術集会

日時：8月31日（土）～9月1日

（日）

会場：日本赤十字看護大学（東京都渋谷区）

テーマ：高度実践時代に向けて看護と専門職のこれからを考える

プログラム：会長講演「歴史に見る看護の専門職化のプロセス—高度実践と役割拡大に焦点をあてて」川原由佳里（日本赤十字看護大学）／教育講演「日本の高度実践看護の始まり、今、そしてこれから」岡谷恵子（日本看護系大学協議会）／招聘講演「The Evolution and Future of Advanced Practice（仮）」Julie A. Fairman（ペンシルベニア大学教授）／シンポジウム「高度実践時代に向けて看護と専門職のこれからを考える」塚本容子（北海道医療大学）、峯川浩子（常葉大学）、宇佐美しおり（熊本大学）

参加費：〔事前参加登録（6月28日まで）〕会員7000円、非会員8000円、〔当日受付〕会員8000円、非会員9000円、学生（院生を除く）500円、懇親会4000円

※振込確認をもって参加登録完了。

詳細は下記URLまで。

演題（口演・示説）募集

〔一般演題名登録期間〕4月30日（火）まで

〔一般演題抄録提出期間〕5月10日（金）まで

〔応募資格〕共同研究者も含めて本学会の会員であること／入会は登録締切日（5月10日）までに申し込みを済ませる（2018年度中に会員である必要はない）

〔登録手順〕

第33回学術集会ウェブサイトの入力フォーム（ws.formzu.net/dist/S29532577/）から。

問い合わせ先：日本赤十字看護大学内 第33回学術集会事務局

〒150-0012 東京都渋谷区広尾

4-1-3

E 33rdjsnh@redcross.ac.jp

URL www.33jsnh.com/

本欄へ掲載を希望する学会・研究会・講演会などのお知らせがありましたら、本誌編集室までお送りください。

〒113-8719

東京都文京区本郷1-28-23

FAX 03-5804-0485

E hokenshi@igaku-shoin.co.jp